

登録コード	UAC10500	開講年度	2026				
授業題目	社会学研究Ⅱ					担当教員	前田 豊
						副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・3時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					⇔	因果推論に関する理解と分析遂行能力の涵養から、自身の問題関心に対して経験的妥当性を担保とした分析を行えるようになる。
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					⇔	現代の社会科学で幅広く用いられている因果推論の枠組みを理解することで、社会学を中心とする社会科学系の最新研究を精査し、また大学院レベルの研究課題・計画を立てられるようになる。
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					⇔	因果推論の正しい理解のもとでの分析遂行能力の涵養から、経験的事実に基づく適切な政策提案などを行う能力を身につける。
(2)授業の概要	本授業では現代的な因果推論を取り上げ、その認識論的基礎である潜在的結果変数アプローチ、および関連手法の理解を目的とする。加えて、統計ソフトRを用いた実践方法を演習形式で学習し、自身の問題関心に即した適切な分析手法の選択・実践が行える能力の習得を目指す。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：確率と回帰の概要（テキスト第2章） 第3回：DAG（テキスト第3章） 第4回：潜在的結果変数に基づく因果モデル（テキスト第4章） 第5回：層別化・マッチング①（テキスト第5章） 第6回：層別化・マッチング②（テキスト第5章） 第7回：RDD（テキスト第6章） 第8回：操作変数法①（テキスト第7章） 第9回：操作変数法②（テキスト第7章） 第10回：パネルデータと固定効果モデル（テキスト第8章） 第11回：DID①（テキスト第9章） 第12回：DID②（テキスト第10章） 第13回：SCM（テキスト第11章） 第14回：研究デザインを考える① 第15回：研究デザインを考える② 定期試験なし						
(4)成績評価の方法	各セクションごとに設ける小課題（40%）、および最終課題のレポート（60%）より総合的に成績を評価する。						
(5)成績評価の基準	1)各種分析手法の理解、2)実践するスキル、の2つから評価する。それぞれに十分な能力の涵養が認められれば「卓越している」と評価し、いずれかに卓越さが認められる場合には「かなり上にある」、いずれかに秀でる点がある場合は「やや上にある」、総合的に妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	基本的な記述・推測統計に関する数理的な理解を前提に授業を進めるため、各回の授業に際しては、これらの十分な事前の復習を強く求める。また、本授業ではRを用いた実践方法も授業に組み入れているため、基礎的操作に関する主体的な学習も強く求める。						
(7)履修上の注意							
(8)質問,相談への対応	オフィスアワー、および（事前のアポイントを取ったうえで）授業時間外に質問・相談に対応する。メールアドレスはymaeda076[at]shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	Cunningham, S.,2021, Introduction to Causal Inference: The Mixtape, Yale University Press(加藤真大ら訳, 2023, 『因果推論入門-ミックステープ：基礎から現代的アプローチまで』技術評論社)						
【参考書】	Morgan, S. L., and Winship, C., 2015, Counterfactuals and Causal Inference: Methods and Principles for Social Research. Cambridge University Press（落海浩, 2024, 『反事実と因果推論』朝倉書店）。 Pearl,J., Glymour, M., and Jewell, N. P., 2016, Causal Inference in Statistics：A Primer. John Wiley & Sons.（＝落海浩訳, 2019, 『入門 統計的因果推論』朝倉書店）。 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮, 2019, 『計量経済学』有斐閣。 松林哲也, 2021, 『政治学と因果推論-比較から見える政治と社会』岩波書店						